

# 学ぶ

## 先生が足りない

## 模索する教員養成大

長時間労働？ 保護者の対応は大変？ 「ブランク」？。教員の多忙さがSNS（交流サイト）などで広まり、問題が社会で共有されつつある。教員養成大学に入学したものの、別の職を選ぶ学生も。「先生を目指し続けられるように」。大学側は、大変さを踏まえた上で魅力を伝え、教員経験者を特任教授に招くなど、なり手を増やす工夫を凝らす。（加藤祥子、酒井ゆり）

「難しいのは生徒のいろんな考えを認めること。でも自分の常識と擦り合わせながら指導している」。愛知教育大（愛知県刈谷市）の付属図書館。展示スペースの大型テレビに常時、やりがいなどを語る教員らが映し出される。同大の「教職の魅力共創プロジェクト」の一環だ。二〇二〇年度に文部科学省から委託された事業を、二年度以降も大学が独自に継続している。

同大の教員就職数は昨年度、養成課程のある四十四国立大と五十四の国私立の教職大学院の中で全国一。正規と講師合わせ四百五十七人が教員として就職した。しかし、教員採用試験の受験者数は年々、右肩下がりに。〇年に地元愛知県と名古屋市の受験した教員養成課程の四年生は、全体の半分に届かなかった。採用試験を受けなかった学生を調査したところ、「教職以外の職業に魅力を感じたから」「進学や留学をしたかったから」に加え、教職は「勤務時間が長くて大変そう」「責任が重くて自信がない」との回答も目立った。

# 採用試験 半数受けず



教職の魅力共創展。教員養成課程の魅力を伝える展示。愛知県刈谷市の愛知教育大付属図書館で（同大提供）

て図書館で展示。魅力だけでなく、難しさも含めて教職のありのままを伝え、総合的に判断してもらおうと、インターネットサイトでも紹介している。「教育の責任を社会全体で分かち合い、学生が教員を目指せるよう後押ししたい」と小塚良孝副学長は話す。教員を志望する度合いが高

い人に入社してもおつと、一八年から入試改革も進める。前期試験では、どんな教員になりたいかを考えさせる。前期試験では、どんな教員になりたいかを考えさせる。前期試験では、どんな教員

て図書館で展示。魅力だけでなく、難しさも含めて教職のありのままを伝え、総合的に判断してもらおうと、インターネットサイトでも紹介している。「教育の責任を社会全体で分かち合い、学生が教員を目指せるよう後押ししたい」と小塚良孝副学長は話す。教員を志望する度合いが高

は別の教員の仕事も経験できる「学校ボランティア」実習も四年間履修できるようにしている。

実習期間中は、「指導案が書けない」「食欲が出ない」といふに悩む学生も出る。その日のうちに悩みを相談できるよう、校長や教員経験がある特任教授らが午後九時まで大学で待機する体制も整えた。就職に向けても、特任教授らが学校現場での自らの体験を紹介しつつ、やりがいも伝えている。

# 実習 手取り足取り

## 先進的プログラム推進 フラッグシップ大学 文科省が4校を指定

文科省は3月、先進的な教員養成プログラムを研究・開発する「教員養成フラッグシップ大学」として、東京学芸大、大阪教育大、兵庫教育大、福井大の4大学を初めて指定した。地域の教育委員会や企業、研究機関とも連携し、得られた知見は他の教員養成大でも活用を目指す。

同省は、教科を横断して学ぶ「STEAM（科学、技術、ものづくり、芸術、数学）教育」を進め、教員には課題解決に向けて児童生徒をサポートする役割を求めている。指定大は、教員免許の取得に必要な科目の一部を大学独自の科目に振り替えることができる。

福井大は「主体的・対話的で深い学び」が実践できる教員の養成を目指し、学部、教職大学院、教員研修の三つを通じた新しい教育体系の構築を提案。教職大学院では教員が働きながら学べるシステムにし、全国の10大学と単位互換制度も作る。松木健一副学長（教師教育）は「さまざまな大学、機関と連携し、教師の実践力を高められるネットワークにしたい」と話した。

渡部洋一郎副学長は「入学した目的を考えた時、一回の挫折で別の進路に切り替えることになったら残念。丁寧に学生に向かい合っていくことが大切だ」と話す。

「先生が足りない」へのご意見、ご感想は下記のアドレスまでお寄せください。教員不足を発端としたこの企画は、今後も随時掲載します。

kyoiku@chunichi.co.jp